

表2 定期性預貯金の推計結果

	郵便貯金 (期待される符号)	銀行預金 (期待される符号)
α_{j1}	-0.088 (+) (-0.082)	0.515 (-) (1.040)
α_{j2}	1.852 (+) (2.882*)	-0.495 (-) (-0.556)
α_{j3}	-0.278 (-) (1.822)	0.672 (+) (2.296*)
α_{j4}	-0.085 (+) (-1.842)	-0.265 (+) (-3.705**)
α_{j5}	0.016 (+) (1.755)	0.029 (+) (2.767**)
α_{j6}	-0.012 (-) (-3.988**)	-0.008 (-) (-2.128*)
<i>Adjusted R-squared</i>	0.611	0.512
固定効果		
大都市階級	-0.113	-0.407
中都市階級	-0.244	0.258
小都市A	-0.039	0.356
小都市B	0.149	0.376
町 村	0.133	0.401

備考 1.表中、上段の数字は係数推定値、下段()内の数字はt値。**は1%有意水準で、*は5%有意水準で有意であることを意味する。
2.推計式は以下のとおり。

$$Dep_j = \alpha_{j0} + \alpha_{j1}Post_i + \alpha_{j2}Post_i \cdot Dum_i + \alpha_{j3}Bank_i + \alpha_{j4}Incom_i + \alpha_{j5}Spd_i + \alpha_{j6}Rsub_j$$

Dep_j : 各預貯金(郵便貯金、銀行預金)の対預貯金総額比。

$Post_i$: 1 km²あたり郵便局数

Dum_i : 都市階級ダミー(大都市・中都市階級に0、それ以外に1をとる)

$Bank_i$: 1 km²あたり民間金融機関数

$Incom_i$: 年収の対預貯金総額比

Spd_i : 10年物国債流通利回りとの金利差(預貯金金利-国債利回り)

$Rsub_j$: 代替財となる預貯金の金利
(例えば、郵貯通常貯金の回帰式の場合は銀行普通預金金利)

ただし、 i は都市階級、 j は金融機関の種類を表す。

表3 投資信託の推計結果

	投資信託のみ	(期待される符号)
β_{s1}	-1.584 (-3.635**)	(-)
β_{s2}	-0.099 (-0.947)	(-)
β_{s3}	0.151 (2.113*)	(+)
β_{s4}	0.009 (3.094**)	(+)
<i>Adjusted R-squared</i>	0.818	
固定効果		
大都市階級	1.028	
中都市階級	0.353	
小都市A	0.195	
小都市B	0.040	
町 村	0.037	

備考 1.表中、上段の数字は係数推定値、下段()内の数字はt値。
 ***は1%有意水準で、**は5%有意水準で有意であることを意味する。
 2.推計式は以下のとおり。

$$Dep_{is} = \beta_{s0} + \beta_{s1}Post_i + \beta_{s2}Bank_{is} + \beta_{s3}Income_{is} + \beta_{s4}Rtoshin_{is}$$

Dep_{is} : 投資信託の対預貯金総額比。ただし、預貯金は通貨性預貯金、定期性預貯金、投資信託の合計

$Post_i$: 1 km²あたり郵便局数

$Bank_{is}$: 1 km²あたり民間金融機関数

$Income_{is}$: 年収の対預貯金総額比

$Rtoshin_{is}$: 10年物国債流通利回り

ただし、 i は都市階級、 s は金融機関の種類を表す。